

山梨県産業安全衛生大会が開催されました！

平成29年10月3日、山梨県立文学館講堂において「平成29年度山梨県産業安全衛生大会」が約380名の参加により、盛大に開催されました。

大会では安全衛生に係る優良事業場に対して山梨労働局長表彰が贈られるとともに、県内全ての関係者が安全・健康・快適な職場を実現するため、英知と力を結集し、全力を挙げて取り組むとした「大会宣言」が採択されました。

また、『笑う門には福来たる ~笑顔の花を咲かせよう~』と題した有限会社ぱるプランニングシステム 代表取締役 星 ちえ子先生の特別講演及び県内事業場等による安全衛生活動に関する事例発表が行われました。



大会宣言

陸上貨物運送事業労働災害防止協会 山梨県支部



山梨労働局長 安全衛生表彰

局長優良賞



富士電線株式会社 甲府工場

局長功績賞



古屋 佳浩 氏

(元) 林業・木材製造業労働災害防止協会山梨県支部長

平山 公明 氏

(元) 粉じん対策指導委員(山梨労働局)

局長安全衛生推進賞



秋山 博樹 氏

(元) 一般社団法人日本ボイラ協会山梨支部 事務局長

特別講演

『笑う門には福来たる ~笑顔の花を咲かせよう~』

有限会社ぱるプランニングシステム 代表取締役 星 ちえ子先生



事例発表



事例発表 1

「ゼロ災を達成する安全管理システムの構築」
住友電工デバイス・イノベーション(株)山梨事業場
安全環境部長 和泉 茂一 氏
(平成28年度：山梨労働局長 優良賞受賞)



事例発表 2

「木建工事におけるブルーキャップス隊の取り組み」
山梨県木造家屋等建築工事安全対策協議会
ブルーキャップス隊 隊長 井上 昇 氏
(平成28年度：山梨労働局長 団体賞受賞)

大会宣言

我が国の労働災害による死亡者数は、昭和36年をピークに長期的に減少し、平成28年は928人と2年連続で1,000人を下回って統計開始以来最小となったものの、休業4日以上の死傷者数は前年を上回り、労災保険新規受給者数は年間約54万人を越えている状況であり、その社会的・経済的損失は膨大なものとなっている。

一方、山梨県内における平成28年の死亡者数については前年より2人減少したが、10人の尊い命が失われ、休業4日以上の死傷者数も2年連続して減少したが、744人と山梨第12次労働災害防止推進計画の目標であった598人には遠く及ばない状況である。

さらに、労働者の健康を取り巻く環境をみると、一般健康診断の結果では5割以上に何らかの所見が見られ、病気を治療しながら仕事をしている方は労働人口の3分の1を占めるなど、治療と仕事の両立に向けた取組が必要となっている。加えて職場におけるメンタルヘルス不調、過重労働や化学物質を原因とする健康障害などが重要な課題となっており、労働者の心身両面にわたる健康問題は一層深刻化を増している。

しかしながら、『いかなる経済情勢下にあっても、働く場で生命が脅かされたり、健康が損なわれるようなことはあってはならない。』

この認識を全ての者が共有し、働く者の安全と健康を確実なものとするため、経営トップの力強いリーダーシップの下、事業場における自主的な労働災害防止活動や労働衛生活動の充実、強化に取り組むことが必要である。

本大会を契機に、山梨県内の全ての事業者・労働者・関係団体・行政が一丸となって、労働災害による犠牲者をこれ以上出さないという決意を新たにし、安全・健康・快適な職場の実現を目指し、英知と力を結集し、全力を挙げて取り組むことをここに宣言する。

平成29年10月3日

平成29年度 山梨県産業安全衛生大会

